

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岸和田市立常盤小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	3	4	3	3	3	4	1	22	
児童数	110	122	96	103	110	122	2	665	28

研究の概要

1. 研究主題

個を生かす教育をめざして - 基礎・基本を大切にしたい楽しい算数学習 -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数

昨年度の研究実績を生かし、結果を分析すると共に、「数と計算」だけでなく、定着が不十分であった「単分量」「時刻と時間」「面積」などの単元も含めて、個を生かす教育をめざして取り組んだ。
また、国際理解教育（英語活動）に関しては、各学級担任の指導力を高める目的から、今年度は少人数の実施教科から除いた。

(2) 年次ごとの計画

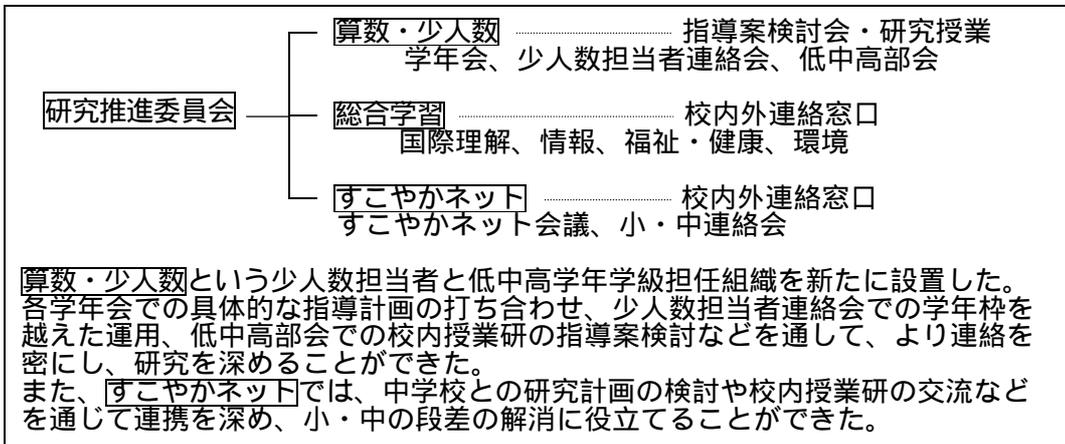
平成14年度	<p>テーマ 一人ひとりの基礎学力の習熟を図るための少人数授業のあり方を目指して研究の見通し 授業を少人数で行うことにより、一人ひとりへのきめ細かい指導が行き届き、指導効果が上がるとともに、基礎・基本の定着を図ることができる。</p> <p>研究内容・方法 ・どのように少人数編成をするのか。 ・加配教員の配置を含め、どのような指導体制を組むのか。 ・少人数編成と同時に、どのような学習指導上の工夫をするのか。 ・理解力向上をどのように見取り、その結果をどう生かすのか。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 個を生かす教育をめざして - 基礎・基本を大切にしたい楽しい算数学習 - 研究の見通し 昨年度の反省をふまえ、研究推進体制を見直すと共に、指導計画・学習形態や分割の方法などをさらに工夫することにより、指導効果をさらに高めることができる。</p> <p>研究の内容・方法 ・綿密な指導計画をどのように作成するか。 ・学習形態と分割の方法をどうするか。 ・自己評価のできる児童をどのように育てるか。 ・児童や保護者の要望を授業にどのように生かすのか。</p> <p>昨年度は、「数と計算」を中心に、低・中学年では単純2分割、高学年では習熟度別を中心とした授業形態で取り組み、単元ごとテストの結果が全国平均を上回るなど一定の効果を上げることができた。しかし、「学年末などの広範囲のテストではまだ定着が不十分である」「文章題でのつまずきの克服」などの課題点も明らかになった。また、教師側として、「綿密な授業計画」、</p>
--------	--

「個別指導の必要性」など改善すべき点も見いだすことができた。まず、「定着の悪い領域はどこか」を明確にし、単純2分割の場合は「学習形態と分割の方法をどうするか」、習熟度別の場合は、「自己評価のできる子を育てるにはどうすればよいか」という課題に早急に取り組む必要がある。そこで、今年度は、以上の問題点を克服するために上記のように年次計画を設定した。

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>個を生かす教育をめざして - 基礎・基本を大切にしたい楽しい算数学習 -</p> <p>研究の見通し</p> <p>中学校との連携を深めることにより、小・中9年間を見通したカリキュラムを作成することができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材、教具の整備及び開発をどうすすめるか。 ・保護者や地域との連携をいかに深めるか。 ・小・中の連携をどのように深めるか。 ・研究成果をどのように測定するか。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

昨年度は、全学年において、市販のテストにおいて全国平均点を上回っていたが、単元ごとの結果を判断していたため、不十分であった。そこで、今年度は各領域ごとのついで分析も行った。特に、今年度から習熟度別指導を取り入れた3年生では、表現・処理の伸びが顕著であり、数学的な考え方や知識・理解でも効果が上がった。

		総合計	考え方	表現・処理	知識・理解
例 3年生 1学期	全国平均	84.6	80.0	90.0	86.0
	クラス平均	89.8	85.0	94.0	92.0
		総合計	考え方	表現・処理	知識・理解
3年生 2学期	全国平均	83.6	83.0	85.0	82.9
	クラス平均	92.7	91.0	97.0	90.9

(文溪堂のテストを使用)

また、今年度から実施した夏休み算数教室にも162名の児童が参加するなど、算数に対する興味・関心も高まり、保護者のアンケートでも90%以上が習熟度別指導を積極的に取り入れてほしいとの要望があった。そして、校内研究授業や研究会も算数科に焦点を当て、校外からの講師先生による指導助言によって、教職員全体の資質の向上に結びつけることができた。

2. 今後の課題

卒業した新中学1年生の学力実態を把握するため、中学校との連絡会を通じて、小・中の連携が始まり、授業の参観やカリキュラムの検討など新たな取り組みをスタートすることができた。小・中9年間を見通したカリキュラムを作成することができるように、さらに協力体制を整えていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

復習テスト
調査の目的：児童の学力実態把握、およびカリキュラム作成資料
実施内容：前年度の復習
実施時期：4月当初

アンケート
調査の目的：児童・保護者・教師の意識把握、およびカリキュラム作成資料
実施内容：少人数指導に対する意識、要望など
実施時期：7月当初

テスト分析
調査の目的：少人数指導による効果の測定
実施内容：単元、領域ごとの学力分析
実施時期：毎学期末

授業を終えて
調査の目的：児童の意識変容の測定
実施内容：単元ごとの感想など
実施時期：単元指導後

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校視察
日時：平成15年6月20日（金）午前9時～午後2時半
場所：本校
対象：熊本市立長嶺小学校 嶋田浩一教諭
内容：少人数授業参観及び研究概要の説明

岸和田市少人数担当者連絡会
日時：平成15年7月28日（月）午後2時～5時
場所：岸和田市職員会館
対象：岸和田市内少人数担当者
内容：研究概要の報告

熊取町立中央小学校研修会
日時：平成15年7月30日（水）午前9時～11時半
場所：熊取町公民館
対象：熊取町立中央小学校教職員
内容：研究概要の報告及び質疑応答

学校視察
日時：平成15年11月20日（木）午後2時半～4時半
場所：本校
対象：馬頭町立和見小学校 竹田民雄校長
内容：研究概要の説明

第3回泉北・泉南地区学力向上推進協議会
日時：平成16年2月10日（火）午後2時～5時
場所：岸和田市立桜台中学校
対象：泉北・泉南地区各小・中学校
内容：公開授業、研究概要の報告、質疑応答及び研究協議

熊取町立東小学校研修会
日時：平成16年2月24日（火）午後3時～5時
場所：熊取町立東小学校
対象：熊取町立東小学校教職員
内容：研究概要の報告及び質疑応答

昨年度に比べて、学校視察や研修会への講師招聘の機会が増え、研究成果の普及に取り組むことができた。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	